

在京花巻人

発行 在京花巻人会
連絡事務局

東京都中央区東日本橋
3-5-9 市川ビル3階
電話 03-6661-1925

会長就任のご挨拶と令和七年度の活動方針

在京花巻人会 会長 畠山 真



このたび、在京花巻人会の瀬川会長の後を引き継ぎ、会長を仰せつかりました畠山真と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。二十五年間という長きにわたり、会長を務めてこられました瀬川会長には、心よりお礼申し上げます。心より、大変お疲れ様でございます。後を引き継ぐ者として、重責をひしひしと感じますが、私なりに一生懸命努めさせていただきます。皆様のご協力、ご支援をよろしくお願ひいたします。

間勤めていた時、卒業する子どもたちに宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の授業を各クラスで行いました。この授業の意図は、卒業する子どもたちに「雨ニモマケズ」の詩を学習することで、賢治の生き方や考え方を一人でも感じ取ってほしいという思いから実践しました。授業をしているとあまり関心を示さない子どももいれば、真剣に賢治の思い、考えを受け止めようとする子どももいました。世界の平和を願う賢治の生き方を少しは感じてもらえたかなと思ひ、小学校最後の授業を行いました。

もう一つ私が教師として心がけていたのは上杉鷹山の言葉で、「為せば成る、為さねばならぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」という言葉で、「どんなことでもやろうと思つて努力すれば必ず実現できる。逆に無理だと思つてあきらめ、努力をしなければ絶対に実現できない」という意味です。自分から何事も進んで実践してみても答えは導き出し、駄目な時は立ち止まって考え、もう一度取り組んでみるという考えでやってきました。子どもたちは日々一生懸命に生活し、生きています。その子どもたちを少しでも支え、教え、育ててあげようと努力してきました。

ふるさと花巻から送られてくる「広報はなまき」と「ぼらーの花巻」をいっつも楽しく、興味深く読ませて頂いています。広報はなまきでは、特に花巻の子どもたちの書く作文は、とても優れていると常に感心させられます。非核平和学習会へ参加した子どもたちの作文は、自分の目で見たことを自分の言葉で表現し、「絶対に戦争をしてはいけない」と

いう思いが素直に書かれていました。「ぼらーの花巻」では、農産物の作り方・食べ方や仕事上の苦労など興味深く読んでいます。ここ数年花巻、北上農協の生産しているアスパラガスを購入し、近所にも配ってありますが、柔らかくてとても美味しいと評判です。また、高橋利光組合長の今月の一文字も楽しみにしています。私も字には拘りがあり、三十年以上にわたり写経を書いています。

会費納入のお願いと納入状況の報告

1. 令和7年度会費納入のお願い
在京花巻人会の運営にご協力を賜り誠に有難うございます。花巻人会は会員の皆様からの会費で活動しています。7年度も7月5日(土)に「つどい」を予定しています。また、歩こう会も昨年から再開(2回実施)し、会報を通じて花巻の情報を発信、花巻人会のホームページでは活動情報を発信しています。

今年度も会費の振込用紙を同封しましたのでよろしくお願ひ致します。
□座名義 在京花巻人会
□座記号番号 00240-6-111794

2. 令和6年度の会費納入のお礼と納入状況
6年度の会費納入は203名、586,670円、他に寄付8件134,791円、合計721,461円でした。会員皆様のご理解とご協力に感謝しお礼を申し上げます。
会計担当 高橋良光 千葉百合子

人のつどい」と会報「在京花巻人」の発行に加えて、昨年度から再開した「歩こう会」・「カラオケの会」や宮沢賢治の「べんべる朗読会」との提携活動も引き続き実施していきます。また、現在の東日本橋の事務所を活用して会員が集える催しの検討も行っていきたいと考えています。

今年度の具体的な活動については、七月五日(土)の「在京花巻人のつどい」の総会の部で提案させて頂きます。ぜひご参加の上、ご審議頂きますようお願い申し上げます。

**令和7年度
「第39回在京花巻人のつどい」
のお知らせ**
日時: 令和7年7月5日(土)11:30~14:30
会場: 東京ガーデンパレス
住所: 東京都文京区湯島1-7-5
電話: 03-3813-6211
アクセス: JR御茶ノ水駅 聖橋口

会員の活動報告コーナー

友好都市平塚市で「花巻の物産と観光展」開催

開催

会長 畠山 真

今年も二月二十一日(金)～二十四日、平塚市民プラザで第四十回花巻の物産展と観光展が開かれました。「おいしい魅力いっぱいの花巻へ」というキャッチフレーズで、毎年大好評の郷土色豊かな特産品の試食・販売のほか、花巻の観光情報も勢ぞろいしてまいりました。今年も、連休もあり開催が金曜日からになりましたが、多くの人たちが花巻の物産をめぐりに訪れてました。

た。

今回は三連休を挟んでの開催で、出展者の皆様も平塚市民の皆様にお会いし、旧交を温めるような思いで販売できる喜びを味わえる四日間だったのではないのでしょうか。

平塚市での物産展が、四十年も続いているというのは素晴らしいことで、ふるさと花巻からの笑顔をたくさんお届けできました。次回物産展は、台東区千束商店街で六月五日から十日まで開催されますのでご期待ください。



北千住で開催の「岩手・花巻ふるさと納税マルシェ」

開催

副会長 梅津 豊

在京花巻人会のHPに

イベント情報として掲載した、ふる里花巻の物産とふるさと納税を組み合わせた「岩手・花巻ふるさと納税マルシェ」を改めてご紹介します。

昨年12月4日(水)～10日(火)、北千住マルイの2Fイベント会場で「岩手・花巻 ふるさと納税マルシェ」は開催されました。このイベント開催も連続4回を迎え累計約1,000人を数える物産展となりました。

運営している一株式会社「海風太陽」は、皆さんには懐かしい花巻駅構内2Fに本社を置き様々な「ふるさと納税」のシステムで、生産者を直接つなげる「ボケマルふるさと納税」を運営する会社です。当日は様々なふる里花巻の物産が販売されましたが、特徴的なは欲しい商品の説明・案内を受けながらその場で「ふるさと納税」が出来る事です。その上返礼品を持ち帰ることも可能です。

花巻市HPに依ると10年前の寄附件数は282件、6,820,346円でしたが令和5年度は610,671件、9,034,270,309円と自然豊かな花巻の返礼品と寄附金は確実にふる

里花巻の産業・観光・教育に役立てられています。

花巻市のホームページにアクセスしてご確認ください、来年は北千住まで足を延ばして「岩手・花巻 ふるさと納税マルシェ」を覗いてみてはいかがでしょうか。



令和7年岩手県人連合会「新春の懇親会」開催

開催

去る2月2日(日)13

時より、上野の東天紅において、県連の「新春懇親会」が開催され、在京

花巻ふるさと会からも県連の瀬川副会長はじめ在京花巻人会から6名の理事、在京石鳥谷町人会からは4名の役員が参加し、岩手県下のふるさと会の役員の方々と交流しました。

今回は、80団体から合計で221名が参加、曾

部事務局長の司会でまずは白土会長が挨拶、来賓のご挨拶は岩手県の高橋孝政東京事務所長、乾林の音頭は岩手日報の菅原智広取締役東京支社長からご発声があり、懇談となりました。

白土会長からは、県連が昨年創立50周年を迎え記念の「集い」を開催し、記念誌を発行することが出来たことのお礼があり、また、能登大地震被災者に対し、会と会員からの義援金を差上げた報告がありました。

アトラクションは横浜金津流獅子舞で、新春に相応しい豪快な演舞に会員の多くがカメラを向けて撮影していました。その後お酒も入って宴は大いに盛り上がりましたが終宴の15時30分となり、参加者は今年が良い年になるよう祈念しつつ散会となりました。

(編集部)



「第4回カラオケ会」を開催

開催

副会長 高橋 勉

4月26日(土)14時

からの第4回カラオケ会は、いつものお店いつものお部屋でした。

高齢者(失礼)恒例の自己紹介と近況報告は、参加者の皆さんの人柄も感じられて歌もいいですが、欠かせない「コーナー」と思っています。やはり今回もふるさとを思う歌が多く、また昭和30年代の歌もかなり飛び出しました。

実年齢80歳超の方の「Goodbye Day」(来生たかお)は、印象的でした。また、ジャズの「Misty」をプロ級に歌われる方。素敵なお声のゲスト歌手?も飛び入り参加。「霧の摩周湖」も懐かしいです。

ある人がこの場で言うてました。「歌は顔じゃない。」名言ですが、この日の参加者は美男美女ぞろいでした。

終わりは20時と6時間たっぷり設定と思いましたが、アツという間に時間が到来、今回は途中で帰る方もいらっしゃらず、11人仲良くお開

きとさせていただきます。別に歌いたくなければ歌わなくても結構、隣の人と心の触れ合いになれば良いのです。

在京花巻人会の会員以外でも参加歓迎、ぜひ一緒に歌いましょう！



在京花巻ふるさと会「満開のお花見クルーズ」に参加

副会長 多田 善利
 天候に恵まれた3月30日、気象庁は桜満開と発表しました。この日、在京花巻ふるさと会恒例のお花見クルーズが、石巻谷町人会幹事の下で催され30名が参加、当理事会から島山新会長、菊池理事と共に出席しました。日本橋からのクルーズは、日本橋川を下り、隅田川を横断して大横川の東富橋まで行き、引き返すコースでした。

東京湾に注ぐ隅田川は川幅も広く、波立つなど荒々しさを感じられ、船首付近に乗船していた方は、若干波しぶきの洗礼も受けた様でした。出発時は肌寒く感じたものの徐々に日差しが強まり、桜は満開になって行きました。丁度「大江戸深川さくらまつり」が開催中で、川筋を散策している方が多く、橋を渡る度には上から手を振ってくれ、船からも声を掛け合うなどして、一緒に桜見物を楽しみました。ガイド「タンタンさん」の巧みな話術に導かれながら、楽しい60分クルーズは定刻に終了しました。

下船後、桜の木の下で記念撮影、そして近くの居酒屋「極みや」で直会を開催、和気あいあいとグラスを傾け合い、来年の再会を誓いました。高橋会長をはじめ在京石巻谷町人会の皆様、有難うございました。



市が新図書館建設候補地に花巻駅前を選択

新図書館の建設に関しては、平成29年度に「新花巻図書館整備基本構想」、令和3年には「同基本計画」が策定されました。しかし建設候補地のJR花巻駅前と総合花巻病院跡地については更なる比較検討なしには判断できないとの意見があり、それぞれの事業費の調査やイメージ図の作成を業者に委託していました。

その結果が昨年11月に公表されましたが、JR花巻駅前、JR東日本からの土地購入費や既存建物解体費などを入れて総工費38.9億円(国庫補助金や交付税措置額を除く市の負担額は8.4億円)。また、総合花巻病院跡地は、土砂災害防止法や急傾斜地法などの指定地域もあるため北側に建設しますが、総工費36.3億円(同7.2億円)。駐車場は必要台数が120台と算定されており、それぞれが対応出来るとしています。

市民同士による市民会議は、住民基本台帳より無作為抽出された3,500人の中から申し込みのあった75名により、昨年11月17日から2月15日までの4回(各回の参加者は53〜65名)開催されました。その結果が市より公表されましたが、重視された項目は1、アクセス、2、活性化、3、安全、4、周辺環境、5、駐車場。1〜4はJR花巻駅前が評価され、5のみ花巻病院跡地が評価されました。又、自由記述でも、駅前は「行きやすい」「駅前の活性化で花巻の印象が良くなる」「明るく交番も近く安全」などと評価されました。これらの結果を踏まえ、市は3月6日の議員説明会でJR花巻駅前を選択し新花巻図書館整備基本計画を策定したい旨表明しました。

(花巻市ホームページより)



JR花巻駅前

本の紹介

武井美砂さんが漫画

「ひざが痛い」を出版

元在京大迫人会の役員だった武井美砂さんが、自身の膝の手術の経験を漫画にして出版されましたので紹介します。

武井さんは6年ほど前に庭のクリスマスツリーの飾りを仕舞っている時に転倒、膝を痛めました。義母さんの介護があり温存療法で済ましていたのですが、義母さんが施設に入ったのを機会に手術をすることにします。病院での診断は前十字靭帯損傷、その病院での手術と入院の顛末を漫画に描き始め、3年がかりで昨年11月に一冊の本にして出版しました。(武井さんのペンネームは「味噌ノ山」です。)

もともと武井さんはイラストや似顔絵が素人ですが、毎年の年賀状にはその年に活躍した人物のイラストが描かれていて、楽しませてくれました。文章も秀逸で会報在京花巻人にも素晴らしいエッセイを何度か書いてくれています。

さて、「ひざが痛い」ですが、武井さんは膝が悪い方には是非読んで欲しいとのこと。確かに病院の選択から、膝痛の症状や治療方法、リハビリの方法など、専門的と言えざるほどの内容です。で、役に立つこと間違いはありません。ただ、この漫画の楽しみは、武井さんの鋭い人間観察！お医者さんや看護婦さんともより、同室の患者さん達の様子が生き生きと、そして小気味良く描かれています。

この漫画は、一部千円で通販サイト「BOOKTH」と、中野ブロードウェイ3階の「TACOCHE(タコシエ)」でも販売しているそうです。



《はなまき あれこれ》

令和5年度ふるさと納税の使い道について

令和5年度のイーハトーブ花巻応援寄付金（ふるさと納税）90億3427万309円の使い道について旧聞になってしまいますがお伝えします。

市は七つの使い道を設定しており、寄付者は使い道を選ぶことが出来ます。寄付金の内訳は、「仕事いっぱい、雇用いっぱい活気に満ちたまちづくり」に13億6千万円、「自然豊かな地域でともに支え、誰もが安心して、いきいきと快適に暮らすまちづくり」に15億5千万円、「郷土を愛し、丈夫な体と深い知性を持つ心豊かな市民が育つまちづくり」に10億2

千万円、「全ての市民が手と心をつなぎ、個性あふれるまちづくり」に3億4千万円、「市民目線で経営する強くて優しいまちづくり」に2億2千万円、「市長におまかせ」に約46億円、「ウクライナ人道危機救援金への寄付」が413万円でした。

使い道の主な事業は、公園整備事業・生活道路維持事業・交通安全環境整備事業が最大で17億1千万円、学童クラブ施設整備・小中学校維持事業に8億2千万円、医療費助成事業に4億4千万円などでした。

（広報はなまきより）

令和6年度「20歳のつどい」開催さる

去る1月11日、文化会館で「花巻市20歳のつどい」が開催されました。令和6年度の対象者934人の内701人が、りりしいスーツや華やかな振袖に身を包み、旧友との再会を喜び合いました。

式典の部では、記念品の贈呈が行われ、実行委員会の菊池凌平委員長と松本冴葉孔副委員長が、それぞれ「20歳の決意」を表明しました。記念行事は実行委員会の皆さんによって企画・運営され、寄せ書きコーナーやフォトスポットの設置、市内中学校の

制服ファッションショウ、「20歳の主張」の披露など、皆さんの思い出に残るような行事が行われました。

小学校で東日本大震災、中学校卒業の年にコロナ感染症を経験、様々な制限の中で20歳を迎えた世代が、新たな未来への1歩を踏み出しました。（広報はなまき2/1号より）



「第23回全国高校生童話大賞」受賞作品決まる

「全国高校生童話大賞」は、全国の高校生に豊かな想像力と自由な表現力を発揮し、「賢治のふるさと花巻」に届けてほしいとの思いから開催しています。令和6年度もみずみずしい感性で輝きを放つ多くの作品が集まりました。

応募総数は128校、649編。その中から選考の結果、山田高校（高知県）の谷まゆみさん（2年生）の作品「小径に眠る」が金賞を受賞。また、銀賞は共立女子高（東京都）の星野明希さんの「命の花」、

神戸星城高の真弓璃子さんの「悠久の手紙」、出雲高（島根県）の内部泰成さんの「凍み炭団」の3作品でした。銅賞には、7作品が選ばれました。

表彰式は12月7日になはんプラザで開催、金・銀賞を受賞した4名が招待されました。

（広報はなまき12/1号より）



昨年の授彰式

花巻市民劇場「君たちはメキシコでどう生きるか」公演

第49回花巻市民劇場公演は、「君たちはメキシコでどう生きるか 照井亮次郎開拓記」を2/23と24に文化会館で上演しました。編集部が現地で観劇しましたので報告します。

照井亮次郎は花巻市東12丁目出身、明治時代に榎本移民団に加わってメキシコに渡り、その後移民団から独立し組合を設立して成功をおさめますが、メキシコ革命などの影響もあり解散の止むなきに至ります。

亮次郎という人物について花巻でも知らない人が多く、メキシコでの様々な業績もどう評価したら良

いか戸惑うかと思います。その点、劇化は難しいと思いましたが大切なポイントをうまく組み入れて、全体的にはまとまった舞台劇になっていました。小田島柳子を狂言回しにし、日本人ツアーを組み入れたりした工夫が功を奏したと思います。

この公演が、花巻市民が亮次郎を知り理解する機会になることを願い、劇場を後にしました。

（編集部 写真は翌日の岩手日日より）



「第67回元祖わんこそば全日本大会」開催さる

1957年に始まったこの大会も今年第67回目を迎えましたが、去る2月10日に文化会館において賑やかに開催されました。今年日本各地と台湾から参加した食士は180名、2800人の観客が大会を盛り上げました。

一人3分で争う小学校の部では、湯口湯本ファイターズチームが優勝、人気のアナウンサー対抗の部は、テレビ岩手チームが優勝しました。団体の部では、MAX鈴木さんが率いる侍イーティングチームが3分300杯オーバーで優勝しました。

注目の個人の部は、5分間の競技ですが香川県から参加の山神智弘さん(41歳)と一関から参加の岩淵恭史さん(40歳)が246杯で並び、年長者の山神さんが第67代横綱に輝きました。3位には、243杯を食した東京から参加の大食いユーチューバー「えびまよ」こと海老原まよいさんが入賞しました。



(広報はなまき3/1号、インスタグラム等から)

「第28回おおはさま宿場の雛まつり」華やかに開催

第28回となる「おおはさま宿場の雛まつり」が2/22より3/3まで、メイン会場の「大迫交流活性化センター」を中心に町中で開催されています。編集部が24日に現地取材しましたので報告します。

何と言ってもメイン会場の1300点の雛人形が圧巻、大迫がかつて大いに栄えていたことと、絹生産が盛んで京都との取引があったことなどから集められた逸品ばかり。大きな享保雛だけでも数組あり、器量の良い「次郎左衛門雛」も展示され、めったに見られない雛人形に感動でした。メイン会場には地

元の説明者が沢山おり、丁寧に説明してくれました。

町内全体では、およそ30の会場に2500点の人形が飾られているとのこと。家々の前に立つと家の中から声を掛けられ招いてくれました。おもてなしに徹した町を挙げたイベントで、こちらも感動でした。会員に是非一度は訪ねてもらいたい催しです。(編集部)



花巻北高、弓道部女子団体全国優勝そして人工衛星も！

昨年12/25から3日間、四日市で開催された「第43回全国高等学校弓道選抜大会」で、花巻北高弓道部が女子団体で県勢初となる全国優勝を飾りました。

決勝トーナメントは、3人による各4射、計12射の的中率で競う方式。花巻北高は1回戦、2回戦、準々決勝と勝ち進むと、準決勝は大垣商業に10-10、決勝も宮崎商業に8-8となりましたが、共に延長戦の競射を劇的に制し日本一に。1月9日には花巻市役所を訪問、日本一を上田市長に報告。上田市長は「創立94年の花巻北高の歴史上全国優勝は初めての快挙、同窓生としても大変うれしい」と讃えました。また、花巻市スポーツ栄光賞を授賞しました。

一方、前々号で紹介した花巻北高生が携わった超小型人工衛星「YODAKA」は、昨年11月29分(日本時間)ドラゴン補給船に搭載され、ロケット「Falcon9」でケープカナベラルより無事打ち上げられ、今も地球を周回しています。打ち上げ時には全校生がYou Tubeで見守り、成功に大いに盛り上がったとのこと。



(花巻市ホームページ、花高NEWSより)

花巻東甲子園で8強の活躍と県外生獲得が話題に

3月18日から始まった第97回選抜高校野球は、初日の第2試合で花巻東が鳥取代表米子松陰と対戦、強打を見せつけて10対2で快勝。6日目の2回戦では東京代表二松学舎と対戦6対3で快勝、バットを振り切る指導で打撃を磨いた成果が出ました。

準々決勝に進んだ花巻東は、9日目の第1試合で健大高崎と対戦、浅利投手から萬谷投手へと継投策で臨みましたが、序盤に5点を献上してしまい、9対1で敗戦となり16年振りの4強を逃しました。上田市長も応援に駆け付けましたが、ベスト4まで勝ち進

んだ健闘を讃えると共に、応援の皆さんと夏に戻ってくることを期待していました。

一方、花巻東硬式野球部は今春から県外出身選手を受け入れるとのこと。佐々木監督は、麟太郎選手と米国の4大学を視察してその素晴らしさに危機感を持ったこと、又、岩手だけでやるという時代ではないとの考えのようです。このニュースに全国の高校野球指導者は、警戒心を隠せないようです。

(朝日新聞、岩手日報などから)



「真臣乳と亮次郎」

（第2回） 瀬川 紘一

2 二人にとつての明治という時代



内村鑑三

「人々の『主権者たる精神』と、それを支える『自由・平等の理念』ではなかったかと思つたのです。一方、真臣乳と

います。

そして、福澤諭吉は「日本には政府ありて国民無し」と述べ、ルソーの民約論を訳した中江兆民は「我邦人は正に考へること無きに座するのみ」と嘆きますが（渡辺浩著「日本政治思想史」より）、これは日本人の主権者としての覚醒の不十分さを指摘しているように思います。また維新前には「自由」や「平等」を旨とする天賦人權論が日本に紹介されるのですが、人々に根付くことはありませんでした。この維新という近代革命で問われていたのは、民主主義の政治体制を支えるために必須となる

亮次郎は新しい時代に自分達が学ぶべきものは何なのかを必死に探し求めていました。中村正直がプロテスタントの徳目を書いたサミュエル・マイルズの「SOEHOOR」を翻訳した「西国立志編」や、福沢諭吉が民主主義道徳を説いたフランシス・ウエーランドの「修身論」を一部引用して書いた「学問のすすめ」は、共に明治初年のベストセラーでした。「西国立志編」は亮次郎の愛読書だったと伝えられていますし、真臣乳も当然「学問のすすめ」も併せて読んでいたものと思われまふ。二人はこれらの書籍を通じて、

これからの日本がどういう国を目指すべきか真剣に考え、何より自らの生き方がどうあるべきかを懸命に模索していたのだと思います。

(4)明治という時代とキリスト教
内村鑑三と新渡戸稲造を通じて、

「人々の『主権者たる精神』と、それを支える『自由・平等の理念』ではなかったかと思つたのです。一方、真臣乳と

キリスト教を、それとは全く対極的な受け止め方をしていたのが明治初年にキリスト教と出会った人達（森有正著「内村鑑三」より）でした。彼らはキリスト教との遭遇を日本人の世界観や人生観を変革させる衝撃として受け止め、西洋思想が新しい日本の近代社会を支える精神や思想であることを理解し、その日本化に取り組みます。内村鑑三と新渡戸稲造はその代表的な人物でした。

内村鑑三は万延2年（1861年）に高崎藩士の子として、新渡戸稲造はその1年後の文久2年（1877年）に南部藩士の子として生まれました。二人は明治10年に共に札幌農学校の二期生として入学し、そこでキリスト教に出会います。内村は、後に書いた「武士道と基督教」で、自ら入信したキリスト教を「武士道の上に接木された基督教」と表現し、一方の新渡戸も「武士道」を書き、その終章で多くの言葉を聖書から引用しています。まさに「サムライ・クリスチャン」（新保

祐司著「明治の光・内村鑑三」より）と呼ぶに相応しい二人でした。

内村は、キリスト教信仰という内的経験により、多くの苦難を乗り越えながら、武士道から近代精神への転換を図りま

す。徳富蘇峰は、「内村さんのような人が明治に産出したことは明治の光だ」（同著より）と語っています。内村は明治の人々の精神的指針となり、その光に惹きつけられた多くの明治の若者たちを大きく育むことになりました。一方の新渡戸もキリスト教信仰とともに様々な実践活動を通じて武士道を近代精神に繋げます。「武士道」の最終章にこれからの社会は「平民道」（新渡戸のデモクラシー）に向かうと示唆していますが、新渡戸も民主主義の育ての親として人材育成に努めることにも、農政の専門家として、又社会啓蒙家として活躍、さらに国際人として世界平和の実現に貢献します。二人は「近代西欧における民主主義とキリスト教との関係をその原型において理解していた」

（森有正「内村鑑三」より）のたと思ひます。

ただ、二人の性格は対照的で、新渡戸は他人に對し常に優しく包容力があり、一方の内村は峻厳で妥協を許さない性格で、新渡戸が「母」だとすれば、内村は「父」であると言われます。二人は全く対照的な人生を歩みますが、その信仰の在り方も全く違つていて、内村が「神という絶対的なもの」に對峙したのに對し、新渡戸は「人と社会」に對峙したキリスト者でした。

さて、真臣乳は内村鑑三に導かれその弟子となり、敬虔なキリスト教信者として生涯を生きることとなります。一方の亮次郎は、新渡戸稲造の影を追いながら海外雄飛の道を選び、自由と平等を目指して新しい社会の創造に取り組みることになるのです。

3 花巻という土地の歴史と風土

真臣乳と亮次郎の生き方のもう一つの背景になつて居るのが、花巻の



新渡戸稲造

紀には親鸞の弟子の是信房が奥羽の和賀から花巻に移り、彦部に入つて本誓寺を建立し浄土真宗の布教に努めます。これが、15世紀に蓮如から

長い歴史に育まれた風土でした。その二つの顕著な特性について歴史を辿りながら考えてみます。(1)敗者の歴史と共に育まれた「宗教的精神性」東北の歴史は敗者の歴史であると言われま

な地域)が源頼朝の東征によつて滅ぼされます。16世紀には秀吉の奥羽仕置きにより稗貫氏の取り潰しがあり、19世紀には戊辰戦争によつて敗者となり

始まった「御内法隠し念仏」が江戸中期に和賀・稗貫・紫波で大いに広まる下地となりました。隠し念仏が広まる前の寛永12年には切支丹の後藤寿庵が笹間村に滞在して

は、花巻の篤志家である佐藤庄五郎の長女で救世軍の山室軍平に嫁ぎ、廃娼運動や結核療養所建設などに献身的に取り組み、救世軍の母と呼ばれました。ちなみに、負けず嫌いな機恵子は小学校の成績も優秀で二位に落ちると悔しがって泣いて

ます。(2)花巻地方の自然環境や歴史が育んだ「開明的精神性」もう一つの特徴的風土として挙げたいのが「開明的精神性」です。「開明的」とは、花巻地方の人々の賢明で進取的、且つ先進的な考え方や生き方を指します。

このことから、花巻地方は歴史的に所謂「辺境」ではなく、むしろ権力や異なった文化が交差するいわゆる「あわい」(間)だったと考えられます。古くは、縄文時代の北部の円筒土器と南部の大木式土器の緩衝地帯が花巻地方でしたし、弥生時代末期から併行した北海道の続縄文文化も、北東北に展開した時には花巻地方を境に古墳文化と接します。時代は飛んで、稗貫氏の時代も花巻は要衝でしたし、続く江戸時代には花巻が仙台藩と接する藩境であったことは身近な歴史です。又、稗貫を閉鎖とした古文書もあり、猿ヶ石川や稗貫川を遡つて三陸に抜ける道、一方の豊沢川や和賀川を遡り出羽地方に通じる道も、古代から活用されていたようです。

「花巻は不思議な町である、ここで生まれた人の中で宗教的天才が目につく」と記しています。又、続けて新渡戸稲造と山室機恵子、宮沢賢治の名前を上げます。山室機恵子(1874年~1916年)

「宗教的精神性」という風土の中で育った照井真臣乳は、内村鑑三と邂逅することになり、その放つ光に触発され自らの生涯をキリスト教の信仰に委ねることになり

「開明的精神性」を育んだ背景として、まず独特な地勢を上げたいと思います。花巻は、西の奥羽山脈からの溶岩や噴石が張りだした台地と、東の北上山地が張りだした丘陵の間に北上川を挟んで位置しています。従つて北上平野の中で北上川に沿つた集落では最も高低差があり、両岸の台地も迫つていて、要害としての価値が大きかったようです。又、北上川の川岸の岩石やその流れの様子からも、花巻が地質学的に区切りになっているように感じますし、東北との寒暖差を考えると、気象的にも人間の活動様式が別れる地域だったと推測されるのです。

このように、花巻地方は歴史的に東西南北に通じるまさに政治や文化のクロスロードであり、そのことが「開明的精神性」を育む背景になったと考えられるのです。(続く)

《首都圏で「花巻」と出会うコーナー》

女性の活躍編

花巻在住の作家 阿部暁子さんBS番組に登場

去る1月30日(木)、BSテレ東の番組「あの本、読みました?」(22:00~23:00)に花巻市出身で花巻に在住して活躍している作家の阿部暁子さんが出演しました。会報でも過去に、阿部暁子さんの小説「金環日蝕」と「カフネ」を紹介していますが、今回は本人が登場する番組ということで注目していました。

この番組は、女優の鈴木保奈美さんと局アナがMCとなって、毎回決まったテーマで本を紹介しします。今回のテーマは「名著に美食あり」で、食をテーマにした小説を多く書かれている原田ひ香さんと、食を重要な要素とした小説「カフネ」を書いた阿部暁子さんが出演しました。

前半30分は原田さん、後半の30分に阿部暁子さんが登場、花巻在住の阿部さんはリモートでの出演でした。前に阿部さんの姿をテレビで見た記憶があるのですが、今回改めて画面で出てきた阿部さんがとても若くて、可愛い美人だということにまずはびっくりでした。

さて、編集士は正直なところ、「カフネ」もミステリー

小説ということで、印象的な登場人物と社会性に目が奪われて、食が大事な要素になっていることを本の紹介で取り上げませんでした。この番組で「美味しいと感ずることが生きる力になる」というのが大事なテーマであることに気づかせてもらいました。主人公の一人小野寺せつなが貧困家庭の小学5年生にお握りを作ってあげた時、「おにぎり握れるようになると、戦闘力があがるよ!」というセリフが象徴的です。

阿部さんは、どういうきっかけでこのテーマが浮かんできたのかという質問に、売れる小説がなかなか書けない時代が長かったが、そんな落ち込んだ時でも母親にハンバーグを食べに連れて行ってもらった、美味しさに感動して思わず元気が出たことがあったと、それが切っ掛けですと語っていました。

今年4月8日、「カフネ」は第22回本屋大賞を受賞しました。おめでとうございます!!これから大きくブレイクしそうですが次作も大いに期待して待ちたいと思います。

花巻市が東北初の「女子野球タウン」に認定さる

全日本女子野球連盟は、花巻市を令和6年11月30日付で東北初、全国で18番目の「女子野球タウン」に認定しました。「女子野球タウン」は、女子野球を活用して地域の活性化やまちづくりを進める自治体に対して同連盟が認定するもの。花巻東女子硬式野球部の活躍や、花巻市での全国の強豪チームを招聘した「女子硬式野球イーハトーブはなまき大会」の開催などの実績が認められました。なお、花巻東女子硬式野球部は花巻市スポーツ栄光賞を受賞しました。

今年1月7日、菊池雄星が建設した屋内野球施設K・O・Hで、菊池投手やスポーツキャスターの長島三奈さんの立

ち合いのもと上田市長と山田博子連盟会長の間で調印式が行われました。式後には、上田市長、山田会長、菊池投手、長島さんによるトークセッションも行われました。

市は今後、女子野球の大会開催支援や女子野球ワールドカップ開催誘致、野球教室による競技人口の拡大などを通じて、女子野球の聖地としての認知度アップを図ります。

(市のホームページ他より)



《お知らせ》

「ご苦労さま!二人の役員が退任」



高橋滋明さん

令和2年度から在京花巻人会の理事に就任し、5年間の会の運営に貢献して頂きました。体調がすぐれないことから退任し、今後は常任幹事としてご協力を頂きます。



照井春男さん

十数年にわたり監事を務めて頂きましたが、新体制がスタートしたこともあり、後進に道を譲りたいとのことで退任します。

小原紘一さんご逝去

矢沢出身の会員小原紘一さんが、今年1月20日にお亡くなりになりました。「在京花巻人のつどい」で見事な相撲甚句を披露し楽しませてくれました。昨年10月にアリオ川口で開催された花巻市フェアでも、相撲甚句を誦いあげ盛り上げて頂きました。心よりご冥福をお祈り致します。



「いわて銀河プラザ」で「花巻物産展」開催

6月26日(木)~29日(日)、物産販売3社の他、花巻の名産品を多数揃えています。是非お立ち寄り下さい。

ふるさと交流ショップ台東で「花巻物産展」開催

台東区が所有する「ふるさと交流ショップ台東」で第4回目となる花巻の観光と物産展が開催されます。是非、買い物と応援にお立ち寄りください。

日時 令和7年6月5日(木)~6月10日(火)、

10:00~19:00

住所 東京都台東区浅草4-36-15

(千束通り商店街のほぼ中間)

アクセス 浅草(TX) 駅から徒歩9分、上野松坂屋前から都バスに乗り浅草四丁目まで降りて徒歩1分。